

要 望 項 目	要 望 の 要 旨
<p>3 北九州空港の機能 拡充・利用促進</p>	<p>北九州空港の機能拡充を通じて国内及び国際航空物流ネットワークの形成・充実を図ることは、ものづくり産業の集積が進む北部九州圏の経済活性化や広域的な物流拠点形成のために、必要不可欠です。</p> <p>この施策は、本市における地方創生施策の推進及び、国の「ニッポン一億総活躍プラン」や「日本再興戦略」等に盛り込まれた施策の実現にも資するものと考えています。</p> <p>そこで、北九州空港の機能拡充、利用促進について、以下の事項に特段のご配慮をお願いいたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大型航空機でも安定して離着陸ができるよう滑走路の3,000m化の早期実現 2 早朝・深夜帯等における空港使用料等の軽減措置の拡大 3 MRJ飛行試験の実現に向けた必要な協力

■北九州空港の機能拡充・利用促進

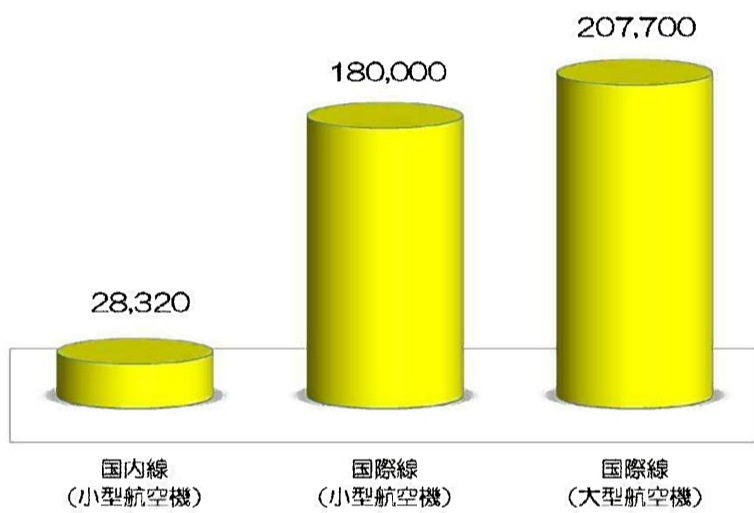
【北九州空港の機能拡充】

【全景写真】



滑走路延伸部分 (500m)

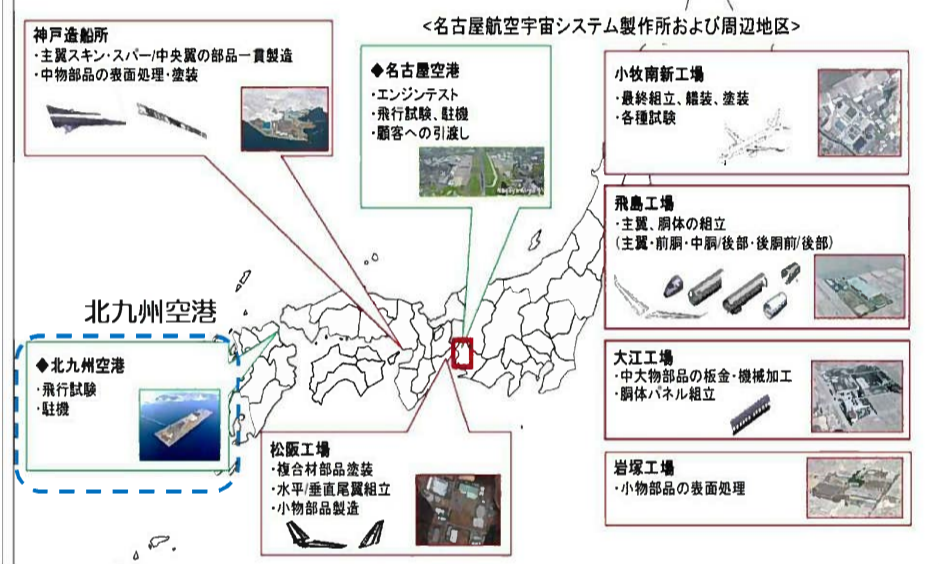
わが国における航行援助施設利用料 (円)



※小型航空機は50人乗り（ボンバルディア式）、大型航空機は380人乗り（ボーイング式）で算出

【MRJ量産に向けた拠点展開構想】

(三菱重工業株式会社H26.2発表)



【北九州空港の利用促進】

■国内 24 時間利用空港



■航空会社が負担する空港使用料等



着陸料の軽減事例

[深夜早朝便]

- 〈羽田空港発着〉
- 深夜早朝旅客便に係る着陸料軽減
 - 深夜早朝国際貨物便に係る着陸料軽減

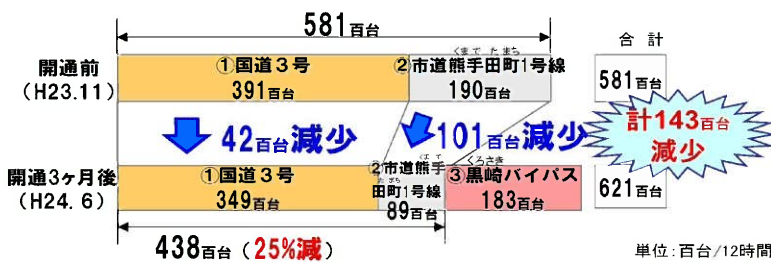
産業と物流を支える大動脈 『国道3号黒崎バイパス』



前田ランプ～黒崎北ランプ間供用後(整備効果)

- 並行する国道・市道からバイパスに約3割の交通量が転換
- 西本町～陣原間の移動時間が11分短縮
- 黒崎誇線橋交差点で渋滞解消(若松方面1,190m渋滞→渋滞なし)

供用に伴う断面交通量の変化(前田～皇后崎4車線化)

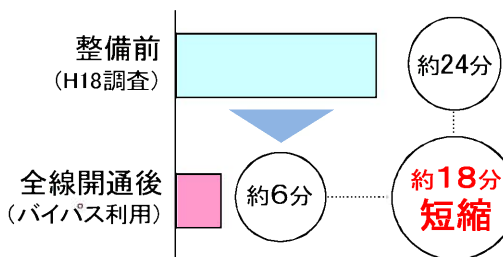


※資料: 北九州国道事務所公表資料(H24.7.27)より(H24年6月調査)

さらに全線が開通すると!

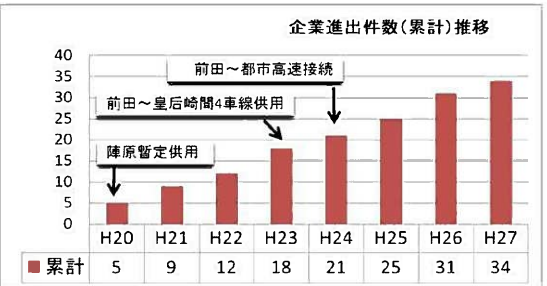
全線開通後の整備効果(将来)

国道3号 西本町～陣原間の所要時間



東田地区企業進出状況(ストック効果)

平成20年度の暫定供用後、黒崎バイパス沿線で34社の企業が進出



8年間で
34社増加

▲暫定供用前(平成19年度末)

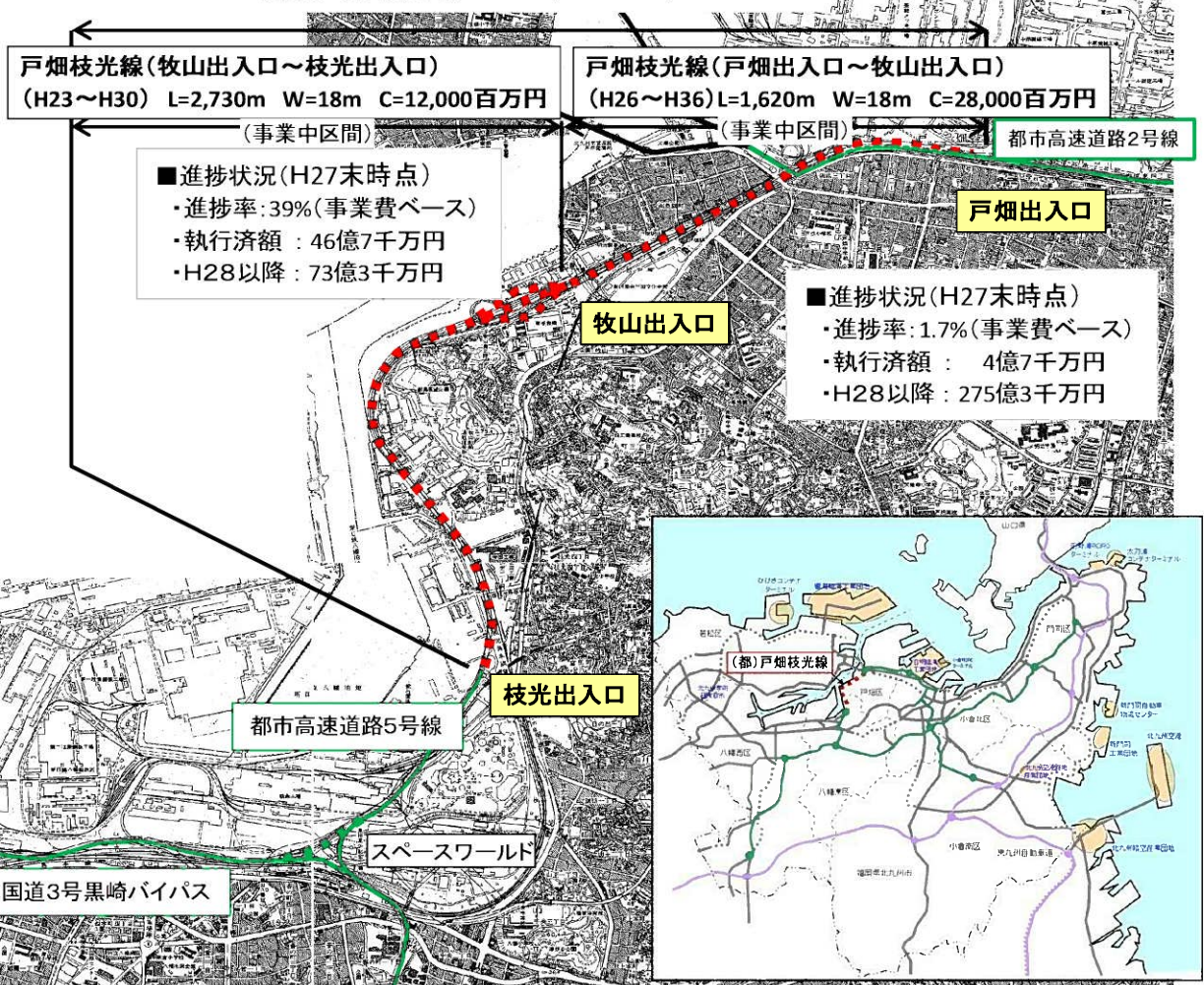
78社



都市計画道路戸畑枝光線の整備推進

若戸トンネル
H24年9月開通

(都)戸畑枝光線 L=4,350m、W=18m



ミッシングリンク解消、リダンダンシー確保のための事業



1:90,000

要 望 項 目	要 望 の 要 旨
<p>4 主要道路の整備促進</p> <p>・国道3号黒崎バイパス</p> <p>・都市計画道路 戸畑枝光線</p> <p>・連続立体交差事業を中心とした広域拠点折尾地区の整備促進</p>	<p>北九州市は、西日本における物流拠点都市としての国際競争力確保に向け、港湾や空港、鉄道ターミナル駅等の拠点整備を進めてきましたが、それらの相互連携を図るためには、道路整備は不可欠です。</p> <p>特に、国道3号黒崎バイパスは、本市の副都心黒崎の再生、地域産業の振興、安全で快適な地域環境の改善に欠くことのできない自動車専用道路です。これまでに5.8kmのうち、5.2kmが開通し、国道3号の渋滞緩和や小倉都心部への速達性向上や新門司港・北九州空港等への物流の効率化が図られています。しかしながら、国道3号の現道や国道200号に未接続で、直轄国道のネットワークが形成されておらず、黒崎バイパスの本来の効果が十分に発揮できていない状況です。</p> <p>黒崎バイパスの開通効果を最大限に発揮させるためにも、①「道路予算の総額の確保」及び「早期全線供用のための本道路事業予算の確保」が必要です。②「春の町ランプと陣原ランプの早期供用」及び残る「黒崎西ランプの工事への早期着手」が必要です。</p> <p>また、戸畑枝光線は、北九州都市高速道路、若戸トンネル、国道3号黒崎バイパスと一体となり、企業進出が進む響灘地区、戸畑区臨海部、東田地区等を結ぶ、環状放射型の自動車専用道路ネットワークを形成する道路です。しかしながら、この環状部の戸畑枝光線がミッシングリンクとなっているため、自動車専用道路ネットワークの本来の効果が十分に発揮できていない状況です。</p> <p>市内各拠点間の連絡を強化し、高速性・定時性の向上、市街地及び路線周辺地域における交通混雑緩和、都市高速道路ネットワークにおける代替ルートの確保、災害時の緊急輸送や救助救援活動の主要幹線道路網の構築を図るため、戸畑枝光線の早期整備推進が必要です。</p> <p>魅力ある地方の創生を実現するため、本市では、都市のコンパクト化の推進と周辺等との交通ネットワークの充実を図っているところです。その中で北九州西部都市圏の中心核である折尾地区において、学園都市や北九州学術研究都市の玄関口にふさわしい地域拠点の整備として、連続立体交差事業、街路事業及び土地区画整理事業を推進しています。</p>

要 望 項 目	要 望 の 要 旨
	<p>事業開始 から10年を経てようやく事業の進捗を実感できるようになりました。特に平成29年1月の鹿児島本線の仮線切替を予定通り実施できる見込みとなり、地元では、新たなまちづくりと早期完成への期待が非常に高まっており、事業を確実に進捗させる必要があります。</p> <p>事業 は、ここ数年間ピークを迎え、平成 30 年度に筑豊本線切替、平成 32 年度に鹿児島本線切替及び新駅舎の開業を予定しています</p> <p>以上の主要道路の整備促進に向けた財源の安定的な確保につきまして、特段のご配慮を賜りますようお願い致します</p>